

わきの だいねんぶつ
脇野の大念仏踊

東山代町脇野

大念仏は、県内では伊万里市の山代郷のみに伝承されている芸能で、大旱魃の際、他の雨乞い手段がなくなった時に雨乞い祈願として青幡神社に奉納される。

鼓四人、鉦四人、笛三～四人、古老七～八人が随伴する。鼓・鉦は、白装束で、鼓役は胸に太鼓を吊り、幌笠をかぶる。鉦役は地藏の種字の書かれた笠をかぶり、左手に鉦をさげ、右手にバチを持つ。社前に男幌と女幌の二本の幌竹および幟を立て、それを中心として、鼓役と鉦役の八人が交互に円陣を作り八周する。中央に笛の役および古老が位置する。手の舞、足の踏み方など厳格な法式があり、打鉦の拍子に合わせて歩調を整え、念仏を唱えながら踊る。一步二踏ずつ進むが、次第に所作は大きく烈しくなると、足をあげて左転右転する舞踊りとなる。所要時間は約二五分程度である。

大念仏は、わが国の中世に盛んであった芸能の一つであって、芸能史上重要な地位をしめるものである。

